

SCK NEWS

 Livedo Medical

株式会社 リブドゥコーポレーション

＜メディカル営業本部＞

〒164-0011

東京都中野区中央1-38-1住友中野坂上ビル16F

TEL:03-5338-5155 / URL: <https://www.livedo.jp/>

発行日: 2021年(令和3年)10月10日

発行: メディカル営業本部

認定看護師
インタビューリレー
《第20回》

手術現場を知ったとき、 “ここで看護をしたい”と思いました

一看護師を志したきっかけは何ですか？

母が看護師だったこともあり、この職業を身近に感じていましたが、幼少期に母が夜勤で家を不在にする時も多く、あまり就きたくない職業だと思っていました。しかし、進路決定の際に母へ相談をしたところ、仕事に懸ける想いや看護観に触れるうちに次第と、私の気持ちに変化していき、母と同じ看護師を志すようになりました。入職当初から私を陰ながら支えてくれており、身近な良き先輩でもあり良き理解者である母がいたからこそ、今の私があると思っています。

一手術室勤務になったきっかけは何ですか？

当初、整形外科の病棟で勤務をしていた頃、ケースレポートを書く機会があり、手術室を見学することになりました。術前術後の患者の姿は何度も見ていましたが、手術中の様子を初めて目の当たりにして、細心の注意を払い術中のケアに全力を注ぐ手術室の看護観に衝撃を受けたのは今でも印象に残っています。

それをきっかけに術中の患者をサポートしたいという気持ちを強く持つようになり、部署異動の希望調査のタイミングで手術室を第一希望に選択したところ、瞬く間に異動となりました。(笑)

異動当初は慣れない業務に苦勞の連続でしたが、やりがいのある仕事に一段と魅力を感じていき、約20年にわたって手術室の看護に携わっています。

一若手看護師に向けてメッセージをお願いします。

手術室看護師としてキャリアを積み上げることも大事ですが、様々な部署で看護を行い、視野を広げることも大切だと思っています。私は若手看護師を指導する立場なので、部下の異動に対して複雑な気持ちもあります。しかし、本人の看護師キャリアを考え

ると患者の状況に応じたケアを施すことのできる人材になってほしいと願っていますし、修得したスキルや経験は様々な場面で生きてくると思っています。そうして、他部署を経験した後、再び一緒に仕事ができたらこれほど嬉しい気持ちはありませんね。

(聞き手: 谷、朝永)



橋本 綾子 氏

栃木県立がんセンター
看護部 副師長
手術看護認定看護師4期生

医療現場のお悩みを

「MORALIS」が課題解決をご提案いたします

MORALIS(モラリス)とは、株式会社リブドゥコーポレーション(以下、リブドゥ)がご提供しております医療現場の総合ソリューションサービスです。様々なメニューを通じて、手術データの集計・分析や医療材料の

ピッキング業務支援、手術関連情報の一元管理など貴院の問題・課題に則したカスタマイズ仕様のサポートが可能です。右記URLもしくはQRコードより、是非お気軽にお問い合わせください。(谷)

医療現場の総合ソリューションサービス [モラリス]

MORALIS

<https://www.livedo.jp/lp/moralis/>



QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

-安心・安全に着目したブランドが誕生しました-

LivCURE(リブキュア)

今回はリブドゥのキット構成ブランド「LivCURE(リブキュア)」をご紹介します。

「LivCURE(リブキュア)」とはLive(生きる)+CURE(治療)の造語で、ロゴにおきましては“医療現場に寄り添うこと”、“患者を思いやること”をハートに手に添えるかたちで表現しております。

実際に現場で働く手術看護認定看護師の方にヒアリングをさせていた

だき、医療安全に着目した「針刺し・切創予防」「薬液誤認予防」「体内遺残予防」

3つのカテゴリーでアイテムを展開しています。どのカテゴリーも“誰でも使いやすい

く、安全に業務ができる”ことにこだわり商品開発をしています。

リブドゥは手術に関わる全ての人たちへ+1(プラスワン)の安心・安全をお届けしたいという想いから、今後



LivCURE

もラインナップを拡大していく予定です。どうぞご期待ください。

※「LivCURE(リブキュア)」の詳細につきましては、担当営業員へお問い合わせください。(重本)

TOPIC

＼“キミ”がいるとがんばれる！／

患者に寄り添う

🐾 ワンちゃん 🐾

今回は、寄り添いのスペシャリスト「ファシリティドッグ」についてのお話です。

ファシリティドッグとは専門的な訓練を受けた犬で、主に病棟で患者を癒し、心のケアを行っています。様々な施設で癒しをもたらすセラピードッグとの違いは、1つの施設(facility)に常駐し、治療にも関与することです。治療への関与とは、検査や治療の際に患者に寄り添うことで気持ちを和らげ、治療を受け入れてもらいやすくすることです。その結果、患者が注射を克服したり、鎮痛剤の量を減らせたという報告もあるようです。さらに、ファシリティドッグは手術室への同行もしており、それにより患者の恐怖心の軽減などに繋がっています。2010年に静岡県立こども病院でファシリティドッグが初めて導入され、現在日本では5頭が活躍しています。今後皆様の病院や手術室に訪れる日が来るかもしれませんね。(村田)

CARE & CURE

Livedo イノベーションセンター 介護と治療の未来を創る

介護(Care)と治療(Cure)の領域において「Material(素材)」
「Process(加工)」「Product(商品)」の開発を一元化させた施設
「イノベーションセンター」で、商品の研究・開発を行っています。

〈イノベーションセンター〉

新しい商品および新しい市場を創造、持続的社会に貢献するイノベーションを生み続けることを目的として、2020年6月に徳島県にある当社の貞光工場横に開設されました。同じ建物の中で、大人用紙おむつの素材から商品までの開発を完結できる施設は、世界的に見ても唯一無二。



紙おむつの加工機が1台入るほどの広さを備えており、この施設でメディカル部門と紙おむつの技術を相乗させた研究・開発に日夜取り組んでいます。

〈若いチカラを大切に〉

建設の際、建物や内装、備品といったほとんどの設備を、センターの若手メンバーで選定しました。そこには、経験によらない新しい発想を大事にしながらイノベーションを始めていきたい、という想いがあります。